

岡病防第14号
平成27年8月27日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成27年度病虫害発生予報第6号

平成27年8月27日
岡山県

予報概評

| 作物名 | 病虫害名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------------|---|------------------------------|---|
| 水 稻 | 穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ | 並 — — — — やや遅 | 並 やや多 並 やや少 並 やや少 |
| ダイズ | べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類 | — — — — — | 並 並 並 やや少 少 |
| モ モ | モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ | — — 並 | 少 少 やや少 |
| ブドウ | 褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ | — — — — | やや多 やや多 並 並 |
| キュウリ | べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病 | — — — — | やや多 並 やや多 やや多 |
| トマト | 疫病 斑点細菌病 葉かび病 | — — — | 並 並 やや多 |
| アブラナ 科野菜 | アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ | — — — — | 並 少 やや少 やや少 |
| キ ク | ナミハダニ | — | やや少 |

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は概ね順調である。

イ. 8月17～18日の巡回調査によると、南部地帯の穂いもちの発生圃場率は44.4%で、平年(52.5%)並であった。

ウ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。大気的不安定な状態が続くと、にわか雨などによって伝染源となる穂いもちの病勢が進展する可能性がある。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月17～19日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(39.1%)よりやや高かった。

イ. イネの茎数は平年よりやや少から並であり、発病を助長する条件ではない。

ウ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月17～19日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月17～19日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は16.7%で平年(25.8%)よりやや低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。

ウ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より少なかったことから、本年度の種子の保菌率は平年より低かったと考えられる。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～4半旬の誘殺数は、0頭（平成2.0頭）で平成よりやや少なかった。

イ. 8月17～19日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平成（7.0%）より低かった。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、高温多雨の場合は発病を助長する条件となる。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～4半旬の誘殺数は436頭と平成（637.9頭）よりやや少なかった。

イ. 8月17～19日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は1.6%で平成（7.0%）より少なく、発生程度は軽微であった。

ウ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～4半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは1頭（平成4.6頭）、イチモンジカメムシは3頭（平成18.9頭）でいずれも平成より少なかった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は

平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

2. 果樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は0頭で平年(22.1頭)より少なかった。

イ. 8月5日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(6.8%)より低かった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 8月5日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は3.6%で平年(42.4%)より低かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月27日で平年(8月27日)並であった。

イ. 7月16日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は0%で、平年(1.6%)より低かった。

ウ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査における発生圃場率は81.8%で、平年(14.9%)より高かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する。

(2) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(72.4%)よ

り高かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高ければ発病を抑制するが、降水量が多い場合発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する（平成24年度植物防疫情報第2号、平成24年4月6日発表参照）。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%で平年（3.9%）より高いが、発病程度は低い圃場が多かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年（49.1%）よりやや高かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年（67.0%）より低かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年（12.9%）よりやや高かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は

平年並か多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査によると、発生圃場率は80.0%で平年（45.7%）より高かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病はやや乾燥条件下で発生しやすく、雨の当たらない施設栽培で発生しやすい。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20～21日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年（17.7%）よりやや高かった。

イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 **アブラムシ類 並**
モザイク病 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤における8月1半旬～4半旬の飛来数は247頭で、平年（184.9頭）よりやや多かった。

- イ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年（6.1%）より低かった。
- ウ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。
- エ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病の発生圃場率は0%で平年（18.1%）より少なかった。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（赤磐市）における8月1半旬～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は0頭で、平年（2.4頭）よりやや少なかった。
- イ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は20.0%で平年（37.4%）よりやや低かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 8月20、24日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は9.1%で、平年（17.1%）よりやや低かった。
- イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。
- イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。
- ウ. 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 8月22日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（18.0%）より低かった。
- イ. 8月20日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。